

企画調査委員会



委員長

針原祥次

Haribara Yoshitsugu (41期)

- 1 弁護士5年目くらいに、懲戒問題に関する講演に参加したのがきっかけで企画調査委員会の委員になった記憶があります。それ以来、何度かこの委員会に参加し、平成24年度には藤原誠委員長の指名で「何も分からないまま」筆頭副委員長に就任しました。それが本年度委員長を務めるようになる伏線だとは、その当時は全く予期していませんでした。このような委員長ですが、1年間よろしく願います。
- 2 企画調査委員会の活動目的は表題のとおりで、友新会の中でも「まじめな」委員会です。海外調査に行った年もありますので、今年も国内調査はやりたいです。司法制度としては、弁護士業務に関係の深いものを取り上げることになります。その中でも、刑事裁判と弁護人の役割について多面的に考える企画を計画しています。裁判外の業務としては中小企業法務と言う切り口で、法改正が連続している労働法や知財関係の企画を予定しています。
- 3 弁護士・弁護士会に対する提言ですが、「国選弁護報酬の支払いが遅いのを改善して欲しい。」との要望は副会長になる前から聞いていますので、議論したいと思います。負担金と会費の関係についても副会長時代に一定の調査と検討をしましたが、もう一度考えたいです。これらの問題は若手会員が特に興味を持っているので、会派において若手会員の意向を確認する企画を行う必要があります。他方で、各会派とも副会長立候補者の人選に毎年苦勞している例のとおり、中堅弁護士・ベテラン弁護士の業務対策も必要です。
- 4 川村和久会員を筆頭として優秀な副委員長が揃っていますので、執行部から無理難題を押し付けられてもめげずに「楽しく」1年間を過ごすつもりです。これをもって就任の挨拶とさせていただきます。